

提案書要約

1 事業名 「サーキュラーユニフォーム」廃棄物削減につなげる循環型制服の実証事業

2 応募者名 日本毛織株式会社

3 内容

(1) 本事業の目的・位置づけ

【問題意識】
 ✓ アパレル産業の過剰生産・過剰消費・過剰廃棄による深刻な環境汚染の問題
 ・資源とエネルギーの大量消費によるCO2排出（→地球温暖化への影響）
 ・有害物質の使用、マイクロプラスチックによる河川や海洋汚染（→生態系への影響）

【ありたい姿】
 ✓ 持続可能な社会を実現するためのサステナブル経営
 ・「人と地球にやさしい」商品開発
 ・「繊維から繊維へ」の再生技術確立による廃棄物の削減と資源の有効活用

✓ 未来を担う子供たちに向けた教育環境の提供
 ・制服を起点に繊維の知識を習得し、衣服がもたらす環境問題への気づきを与える
 ・資源循環の仕組みを通して、持続可能な社会へのあり方を共に考える

(3) 本事業で期待される効果

①子供たちの循環経済（サーキュラーエコノミー）に対する正しい理解
 ・衣服が環境に与える影響を学ぶ
 ・モノを大切に長く使う心を育む
 ・身近な制服を通じて、環境問題に対して自ら行動できることを学ぶ
 ・「棄てる」「残す」のではなく、母校や次の世代との関係性をつないでいけることを学ぶ

②東京都や全国各地の学校へ展開することによる、ポリエステル製品の廃棄量削減
 ・制服表地は、ポリエステル・ウールの混紡品が多く（中学はポリエステル70%、高校はポリエステル50%が主流）、裏地はポリエステル100%が採用されている
 ・学校だけでなく自治体や他企業とも連携を図り、着古制服を棄てずに再資源化する

③アパレル産業における資源の有効活用
 ・製造工程で発生する繊維屑や裁断端材、モデルチェンジ等で焼却しているデッドストック製品を再資源化する

駒場学園高等学校×ニッケによる「国内初」の循環型制服の取組

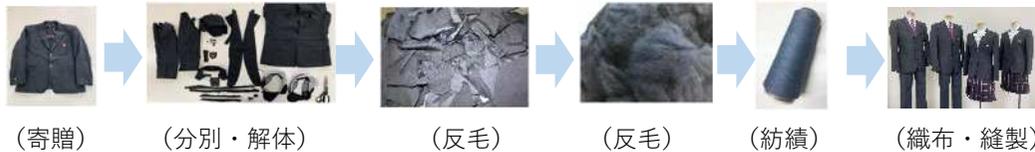
(2) 本事業の取組の内容

①循環スキームの確立

卒業生から寄贈された制服を原料にまで戻し、新入学生の制服に再生させます。

②制服を起点とした探究学習

取組を通し、循環型社会についての理解を深め、生徒の行動変容を促します。



(4) 本事業の実施体制

名称	所在地	プロセス				
		寄贈/回収	分別/解体	反毛	紡績	生地製造
駒場学園高等学校	東京都世田谷区	○				
提携企業 (制服解体工場)	大阪府岸和田市		○			
提携企業 (反毛工場)	岐阜県本巣市			○		
日本毛織株式会社	(工場) 岐阜・兵庫				○	○

(5) 本事業の実施スケジュール

交付決定後	2023年				2024年		
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
循環型制服の製造	生地製造	生地完成	縫製品製造	縫製品完成		採寸・受注	納品
PR資料の制作	工程動画の編集・完成	織ネームの企画・発注	チラシ等の企画・完成	織ネームの完成・縫着			
学校内の周知活動	文化祭でのお披露目	「KGミライの制服プロジェクト」の活動					
実績報告		寄贈式企画	寄贈式企画	学内承認	寄贈の依頼	寄贈の依頼	寄贈式準備